

「伝わる」情報を発信しよう！

広報力アップ講座「プロから学ぶチラシデザイン術」開催



7月2日、NPOの広報力アップの講座をおこないました。

講師の谷浩明さんは、複数の自治体の情報発信、市民団体等の広報活動のサポートや研修など幅広くおこなっている方です。

講義だけでなく実際にチラシ作りをおこなうという講座には多数の受講者が集まり、歯切れのよい講義とわかりやすく的確なアドバイスで、3時間半と長いはずの時間が瞬く間に過ぎました。そして、熱心な話し合いと共同作業で完成了チラシは、それぞれのグループの個性とアイデアが光っていました。



情報を伝えたい相手はだれ？

熱のこもった谷講師の話に、みなさんうなづくことしきり

入江地区の子どもたちの居場所 こどもっ家^ち

清水区入江で高齢者福祉を中心に30年以上活動を続けてきたN P O法人泉の会は、6年前から子どもの居場所を運営しています。携わっている泉の会代表の藤下さんとボランティアの渡部さんに、活動をはじめた経緯や内容についてお話をうかがいました。



NPO法人泉の会
代表 藤下品子さん



NPO法人泉の会

泉の会は、デイサービス等の高齢者福祉を中心に様々な事業を行なっています。平成元年に介護問題研究会泉の会として活動をスタートし、30年以上活動を続けてきました。当初は介護制度がまだ整備されておらず、高齢者の面倒は家族で見なければいけない時代でした。私も介護者だったので、家族の負担を少しでも減らせるようにしたいと思い団体を立上げました。

介護保険制度が整備された2000年にN P O法人格を取得し、通所介護指定事業所になりました。



こどもっ家をはじめた理由

その後は社会福祉協議会と連携し、生活困窮者支援事業として一時入居のための施設「シャッフルハウス」をはじめました。そこでは幼少期の家庭環境が複雑だった人と出会うことが多く、子ども時代の環境の大切さを感じました。

子どもが地域で健やかに育つことができる環境をつくりたいと、社会福祉協議会に相談した結果、すでに誰でも気軽に立ち寄れる居場所として開所していた「生き生きサロン寄って亭」を活用した子どものための居場所「こどもっ家」がスタートしました。

こどもっ家



▲大学生ボランティアと一緒に本を読む



▲一緒に遊んでいるお兄さんは中学2年生からボランティアをしているベテラン



▲各々が好きなことをして過ごせる自由な空間



▲楽しく遊んだ後はみんなでそうじ



▲最後に次の予定をお知らせ



▲コロナ禍で食事ができない間はお弁当で対応

(6/11取材)



特定非営利活動法人 泉の会 こどもっ家
kodomocchi2017@yahoo.co.jp (担当: 平井)



公式
LINE



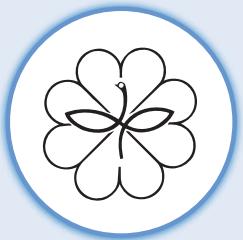
こどもっ家の運営を支える団体と人々



NPO法人泉の会
活き生きサロン寄ってー亭



ボランティア
大学生
地域の住民



入江地区
主任児童委員

地域の子どもや保護者を支えるこどもっ家の活動

月2回居場所



誰でも遊びに来られる
中学生ボランティア

平日の午後
土曜の午前

ママっ家^ち



悩みや心配事を
抱えた保護者

不定期

学習 サポート



不登校・登校渋りの
ある子ども

平日



こどもっ家ってどんな居場所？

誰でも遊びに来ることができる居場所として、月2回開催しています。特に決まったプログラムではなく、各々が好きなことをして過ごしています。

現在はお昼にお弁当を渡していますが、新型コロナウイルスが流行する前は、ごはんを一緒に作っていました。特にカレーが人気で、子ども達には“こどもっ家カレー”的名称で呼ばれていました。

緊急事態宣言が出された時は、感染のことも考慮して活動を休止したこともあります。しかし、休校で給食がなくなってしまい、1人で食事をする子ども、食事がない子どもがいることがわかりました。そこで、近くにある多機能事業所に協力してもらい週3回パンを配達してもらう等、困っている子どものためにできることから活動を再開していました。



これからの活動について

5年続けてきたことで学校との関係が変わってきた。当初は「こどもっ家」の活動に興味がないという印象でしたが、現在はスクールソーシャルワーカーの先生が子どもたちの様子を見に来てくれたり、校長先生が会議の場で「こどもっ家」を例にあげ、福祉と教育の連携の重要性を説明してくれる等、だんだんと地域の居場所としても認識してくれるようになりました。「学習サポート」でボランティアたちが支援していた不登校の子どもが学校にまた通えるようになる等、変化が表ってきたからだと思います。

「学習サポート」は、7月から週2日から週5日に増やす予定です。コロナ禍で最近は実施できていませんが、保護者が子育ての悩みや困りごとを話し合う『ママっ家』もやっています。「こどもっ家」が地域とつながるきっかけになるように今後も取り組んでいきたいと思います。

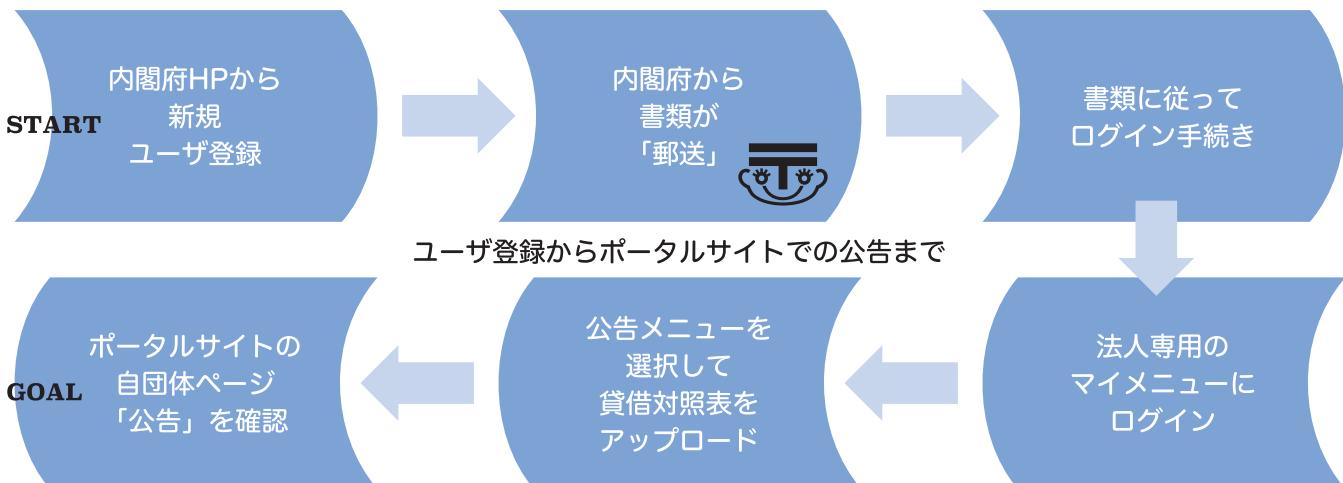
ボランティア
(主任児童委員)
渡部恵美子さん

NPOワンポイント 内閣府ポータルサイトによる貸借対照表の公告について

NPO法人は、法改正により貸借対照表の公告が義務付けられています。公告の方法についてはそれぞれの法人の定款で定められている方法でおこないます。

「官報」や「日刊新聞」と記載されていればそれに依って公告しなければなりませんが、貸借対照表の公告については定款を変更してホームページや掲示場の利用などを提案しています。特に内閣府ポータルサイトは、費用がかからず安定的に閲覧できるのでお勧めです。

始めにユーザ登録が必要ですが、「内閣府NPOホームページ」で検索するとその手順がわかりやすく解説されています。まだ登録をされていない法人はぜひご活用を！



記念事業の準備が始まりました!

実行委員会が立ち上がり、清水市民活動センターの16周年記念事業の準備が始まりました。

今年は商店街にも協力していただき地域のみなさまに市民活動を伝えようと、話し合いが進められています。

メイン事業は11月後半におこなう予定です。

しみず・コレなあに? その51

清水区は神社仏閣の多いまちですが、岡町にある下清水八幡神社もその一つです。

境内に入ってまず目につくのは、何本もの大きなクスノキです。それらは現在静岡市指定天然記念物になっており、中でも異形を放っているのがこの木。写真では分かりにくいかかもしれません、幹の側面が大きく剥がされたようになっています。

1945年7月7日、旧清水市はB29の爆撃を受け、4000人近くが焼け出されました。このクスノキも焼けて黒焦げになりましたが、数年後には焼けた幹から芽が吹き出し、現在も力強く葉を茂らせています。

今年は清水の七夕まつりが復活し、駅前の商店街は久々に賑わいが戻りました。7月7日といえば、七夕のほかに1974年の豪雨を思い浮かべる方も多いでしょうが、平和と再生の象徴ともいえるこのクスノキは、「戦争で、まちが空襲を受けた7月7日も忘れないで」と呼びかけています。

